

中学校社会科単元計画例【歴史的分野：武士の成長】

【単元のねらい】武家政権の成立とその支配の広まりについて、様々な資料を収集し、情報を適切に選択して、図表やコラムなどにまとめることを通して、事象を相互に関連付けて考察し、武士の政治への進出と展開を理解することができるようにする。

【単元のめあて】武士が登場し、実権を握るまでの過程がわかるリーフレットをつくろう。

【単元の課題】武士たちはどのようにして政治の実権を握っていったのだろうか。

1時	【課題】武士たちはどのように登場し、成長していったのだろうか。	【活動】中央の政治のゆるみ、地方豪族の成長、発展等から、武士の登場の背景について考える。	【まとめ】武士は荘園が増え、土地をめぐる争いが増える中で登場し、天皇家や貴族に仕えることで成長した。貴族は、武士の力なしでは政治をできなくなっていった。
2時	【課題】平氏はどのようにして政治の実権を握ったのだろうか。	【活動】朝廷内の争いと平氏の成長について資料から読み取り、平氏の権力の基盤を考える。	【まとめ】平氏は白河上皇などに仕えることで力を増し、二つの乱を経て、平清盛が政治の実権を握った。しかし、貴族や寺社、武士が不満を持ち、追われることとなった。
3時	【課題】鎌倉幕府はどのようにして権力をふるったのだろうか。	【活動】鎌倉幕府の仕組みやその基礎となる土地を仲立ちとした種々関係を知り、御家人のメリットとデメリットを考える。	【まとめ】壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした源頼朝は、主従関係を基礎とした支配の仕組みを整えた。しかし、すべて武士が御家人になったわけではなく、朝廷の権力も残っていた。
4時	【課題】鎌倉幕府はどのようにして全国に力を及ぼすようになったのだろうか。	【活動】承久の乱に際しての北条政子の言葉やその後の展開について、資料をもとに調べ、当時の政治の趨勢について考える。	【まとめ】北条氏による執権政治に不満を持つ後鳥羽上皇が承久の乱を起こすが、失敗に終わり、以後、幕府の支配は全国に及ぶことになった。
5 ～ 6時	【課題】武士たちはどのようにして登場し、政治の実権を握っていったのだろうか。	【活動】武士の登場から成長を示すのにふさわしい資料をダイヤモンドランキングを使って選び、これまでの学習を整理する。	【まとめ】荘園をめぐる争いが増加する中で武士が登場し、朝廷の権威によった平氏が実権を握ったが、主従関係を基盤とする鎌倉幕府がとってかわり、承久の乱を経て全国に支配を拡大し、武家政治が確立していった。

【単元のまとめ】リーフレットの作成を通して、これまでの学習をまとめる。

荘園をめぐる争いが増加する中で武士が登場し、貴族に仕えることで権力を増し平氏が政治の実権を握った。しかし、貴族と同様の政治を目指した平氏の政治は失敗し、土地を媒介とした将軍と御家人の主従関係を基盤とする鎌倉幕府が武士の支持を集めて政治の実権を握ることとなった。さらに承久の乱を経て幕府の支配は全国に及ぶようになった。

【単元の振り返り】武士の成長過程がわかるようにリーフレットをまとめ、説明しあう中で、単元を通して、身に付いたこと、理解したことを振り返る。